

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人しあわせの郷

令和4年度 社会福祉法人しあわせの郷 事業報告

経営理念と基本方針

経営理念

「地域のお年寄りの方が生きがいを持って、安心して暮らすことのできる地域に開かれた施設づくりを通じ、役職員が一丸となって介護を要する人のために、より良いサービスを提供します。」

基本方針

- ・利用者の人権と個性を尊重し、心のこもった介護で豊かな暮らしを支えます
- ・地域との連携を大切にして信頼される施設づくりに努め、地域福祉に貢献します
- ・職員の育成指導並びに福利厚生の実を図り、安心して働ける環境づくりに努めます
- ・健全かつ活力のある経営に努め、安定した施設運営を目指します

運営方針

社会福祉法人としての役割を認識して、運営を長期的に安定させる

- ・地域のより多くの方にご利用いただくため稼働率を高め安定させる
- ・規定やルールを再構築し、運営の地盤を強固にして普遍化させる
- ・安定したサービスを提供するため、介護・看護人材の定着と安定を図る

1、事業概要

①法人の概要

主たる事務所の所在地	電話番号	代表者氏名
岡山県備前市三石2791-1	0869-62-2717	徳永 憲威
事業開始年月日		設立登記年月日
平成 14 年 4 月 1 日		平成 12 年 10 月 12 日

②法人の行う事業

社会福祉事業	施設種別	名称	定員
第一種社会福祉事業	介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム 深谷荘	70名
		地域密着型 特別養護老人ホーム深谷荘	20名
第2種社会福祉事業	短期入所生活介護	ショートステイ深谷荘	6名
	通所介護	デイサービスセンターバンビ	22名
公益事業	居宅介護支援事業所	深谷荘居宅介護支援事業所	—

③登記の状況

登記事項	登記年月日
1 資産の総額 金5億6414万6396円	令和4年6月28日
(役員に関する事項) 兵庫県たつの市揖保町門前369番地1 理事長 徳永 憲威	令和3年7月7日

2、理事会開催状況

開催 年月日	出席者 ／定数	議案	欠席者氏名	出席監事名
第1回 令和4年 6月11日 (土)	5/6	審議事項 第1号議案 令和3年度 事業報告(案)について 第2号議案 令和3年度 決算報告ならびに監事監査報告について 第3号議案 評議員会の日時、場所、議案等について 第4号議案 育児休業に関する規定(案)について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について	松尾 太郎 書面決議	立川茂 西丸将史
第2回 令和4年 8月13日 (土)	6/6	審議事項 第1号議案 運営規定の変更について 第2号議案 介護システムの更新について	みなし決議 6名	立川 茂 西丸将史
第3回 令和4年 12月16日 (金)	6/6	審議事項 第1号議案 令和4年度第1次補正予算(案)について 第2号議案 定款細則(案)について 第3号議案 法人役員及び評議員の慶弔見舞金規程(案)について 第4号議案 組織規程(案)について 第5号議案 監事監査規程(案)について 第6号議案 内部通報制度運用規程(案)について 第7号議案 法令等遵守業務管理規程(案)について 第8号議案 給与規程(案)について 第9号議案 給与規程細則(案)について 第10号議案 慶弔見舞金規程(案)について 第11号議案 規定等管理規程(案)について 第12号議案 評議員会の開催日時について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について	無	西丸 将史
第4回 令和5年 3月14日 (火)	4/6	審議事項 第1号議案 令和4年度第2次補正予算(案)について 第2号議案 令和5年度事業計画(案)について 第3号議案 令和5年度収支予算(案)について 第4号議案 経理規程(案)について 第5号議案 評議員会の日時、場所、議案等について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告	瀬戸 雅嗣 松尾 太郎 書面決議	西丸 将史

3、評議員会開催状況

開催 年月日	出席者 /定数	議案	欠席者氏名	出席監事名
第1回 令和4年 6月26日 (日)	5/7	第1号議案 令和3年度 事業報告(案)について 第2号議案 令和3年度 決算報告ならびに監事監査報告につ いて 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について	和田 吉男 坂越 大輔	立川 茂 西丸 将史
第2回 令和4年 12月24日 (土)	6/7	第1号議案 令和4年度第1次補正予算(案)について 報告事項 理事長の職務執行状況の報告について	和田 吉男	立川 茂 西丸 将史
第3回 令和5年 3月24日 (土)	6/7	第1号議案 令和4年度第2次補正予算(案)について 第2号議案 令和5年度事業計画(案)について 第3号議案 令和5年度収支予算(案)について	坂越 大輔 みなし決議	立川 茂 西丸 将史

4、令和4年度事業運営の概要

事業計画に基づき、経営の安定のため継続して利用率の確保を行ってきたが、特養部門、デイサービス部門では入院者の増加に伴い稼働率が伸びなかった。

対策として肺炎や尿路感染原因については健康管理のありかたや、食事、排泄支援の見直しを行った。効果としてはこれらの疾病は減少したものの、提携病院に入院された方々の退院調整に難航し長期入院となり退去する方が多く、提携病院への早期退院や入所中の療養などの申し入れを行い、入院中の方の療養状況の確認の頻度も強化した。

結果としてそれ以降の入院の方は減少しているものの、長期入院の方は未だ多数おられるのが実情となっている。これらの対策としてショートステイの方の空床利用も促進し、人件費や経費面で調整したものの、特養部門で2度のコロナウイルスのクラスターで新入所の見合わせ、ショートの受け入れ停止となり、デイサービスでは1度クラスター発生で1週間の営業自粛を余儀なくされた。

それらに加え、光熱費の高騰の影響が大きく収入減少に対して売り上げ増加で補完するまでには至っていない。結果として当初の目標であった「すべての事業が安定的に稼働する」ということは未完了となった。

人材確保についても経費面を抑えるため、実績に応じた経費抑制を行ったため、外国人材に関しては年度中の獲得はできなかった。しかし、技能実習生として受け入れているベトナム人材について、当初退職の意思があったが特定技能への切り替えにより、引き続き就労することとなった。そのうち1名は介護福祉士を取得できた。

職員研修については感染症が発生していない時期に動画を活用し 7割の職員が受講する

ことができた。

施設部門の人員減少の中、事務所職員も動員して応援体制を組むことで人員体制を補完するとともに専門職が生活実態をとらえることで、これまでより施設一体となって取り組む体制ができている。

次年度に向けての体制として学ぶべきことが多くあり、当初の目標について体制面では前進した一年となった。

5、 法人全体としての取り組み

① グループウェアの導入

グループ内、法人内の伝達や情報の共有による運営判断が迅速に行えるよう、「サイボーズ」を事務系職員から活用し、今後は全職員への導入を視野に入れ運用を開始した。これまで情報が共有されてこなかった少人数担当者、専門職間の意思疎通、周知事項などに効果が出ている。

② 規程類の新設、見直し

当初の規程類を最新のものとし、運営基盤を強固にするためグループ法人の規程に準じた見直しを行った。

定款細則

法人役員及び評議員の慶弔見舞金規程

組織規程

監事監査規程

内部通報制度運用規程

法令等遵守業務管理規程

給与規程

給与規程細則

慶弔見舞金規程

規定等管理規程

経理規程

③ フードバンクの取り組み

備前市内の社会福祉法人と共同で「ささえあい福祉ネットワーク備前」を立ち上げ、生活困窮者に施設の備蓄食料の無償提供を行い、必要に応じて困りごとの相談ができる活動を開始した。

6、委員会活動

① 内部統制・コンプライアンス委員会

各事業の運営状況を定期的に自主点検し、適正運営の確認を行った。本年度はユニット

型特養、デイサービスの自主点検を行い適正運営に向けて再認識した。

ハラスメント対策についてはリーダー職以上が常時監視し、傾向に基づいて研修に生かしている。

② 虐待防止委員会

毎月の虐待防止アンケート、役職員が委員会での情報収集と対策と検討し、傾向に基づいて研修に連動するように取り組んでいる。不適切ケアの認識を高め、虐待につながりかねない状況を事前に対策を行うことで、介護職員の不適切ケアの認識が向上してきている。

③ 感染予防対策委員会

毎月の全体会議時に感染症情報の共有と施設での方針や対策を検討している。年度内に施設でクラスターが2度発生し、状況に応じたガウンテクニックときめ細かい感染防止対策を決める必要があった。

④ 事故防止委員会

毎月各部門の担当者とヒヤリハット、事故の対策と施設の方針を検討している。目に見えて事故件数は減少していないものの、業務改善に向けた取り組みを確認し、改善を行っていく視点が醸成されている。

⑤ 食生活委員会

感染症で開催頻度が少なかったが、生活に合わせた食事提供について随時委託業者を含めた検討を行っている。本年度は委託業者の協力で日常で使用する食材を活用して2日分の備蓄食料を確保することができた。

⑥ 研修委員会

前年度の研修に基づいて体系化しているため、開催頻度は少なかったものの、研修を受講する職員割合は高く、その年の傾向に合致した研修内容を行っている。

6、感染症対策

新型コロナウイルスの発生からすでに感染拡大期が7期目となり、徐々に重症化するケースが減少している中、高齢者福祉を担う法人として、できる限りの感染症蔓延防止対策を継続的に行った。

グループ法人の対策に準じて状況に応じ対策を継続して行った。

- ①全職員を対象とした出勤前、出勤後の検温、健康チェック
- ②マスクの着用と手洗いの励行
- ③感染症マニュアルを中心とした基本研修の実施

- ④ 感染症発生時の事業継続計画の策定（BCP）
- ⑤ 事業継続計画に基づいた研修・訓練計画の策定

7、防災計画

- ①自然災害発生時の事業継続計画（BCP）の策定と訓練

本年度は台風時の停電想定でロールプレイング形式の研修を行った。

- ②非常時の備蓄食料3日分の確保と管理方法の整備

委託業者の日常的に使用する食料を2日分備蓄し、長期保存備蓄食料と含めて3日分の食糧確保ができた。

- ③非常時電源の確保（全額補助金での整備を検討）

補助金申請を行ったが備前市内の事業所は対象とはならず、今後も申請を継続する。

以上

令和4年度 特別養護老人ホーム深谷荘 事業報告

運営目標として「継続した生活を支えるため基礎、基盤を固め」る事を目標として最重要ミッションを「施設だからできる生活の質」と掲げ施設生活の継続する取り組みを行ってきた。

各職種が介護サービス計画に参画し、より豊かで快適な生活の場を創造することで、より多くの方にご利用いただけるように多職種、役職員一同が取り組んだ。

入所状況としては入所・ショート合わせて平均利用率 86.9%となり、当初予算の稼働率 98%を 11.1%下回った。入所・ショートともに入院者が多く、要介護4・5の利用者割合は全体の約 1.7割となり前年度と横ばいの状況となっている。

	令和4年度	令和3年度	平成2年度	平成31年度	平成30年度
要介護1	27.8%	22.3%	28.6%	29.2%	26.7%
要介護2	29.0%	12.0%	8.1%	31.0%	8.4%
要介護3	25.9%	28.6%	16.3%	8.8%	21.54%
要介護4	26.5%	33.0%	44.4%	28.7%	15.2%
要介護5	4.6%	4.1%	2.6%	2.3%	28.3%
平均介護度	3.3	3.3	3.5	3.5	3.6

介護報酬実績については、令和3年度の 25,909 万円を上回る 27,428 万円 (+1,519 万円) となりました。当初予算からは 1,738 万円マイナスとなった。今後もより多くの入所者への「ケアの質」を追求し、「基本理念」に沿ったサービスを提供できる施設を目指す。

1、処遇報告

運営理念・運営方針に基づいて、「施設だからできる生活の質」をミッションとし、利用者・家族の立場に立ったサービスを提供し、施設生活を継続していただく為に、医療面の強化・連携、研修の充実を図り、ケアの実践に努めた。

短期入所生活介護事業においては、在宅での生活を維持・継続していただけるよう支援した。

(1) 生活相談、入居促進

① 入院者の増加に伴い、入院状況の把握による早期退院の促しを強化し、入院期間の短縮が行えたが、その反面長期入院となり退去する方も多くおられた。

入所登録人数の上限まで新入居者を獲得したが、入院者の増加が実績低下の要因となった。

② ショートステイの利用促進を行い、居宅との連携により空床利用者が増加した。

(2) 施設ケアマネジメント

① 担当者会議を定期的に行うことで施設サービス計画の作成、更新が予定通り行えた。

② モニタリング、評価、計画変更等を定期的に行った。

- ③ ご家族や専門職調整による「施設だからできる生活の質」を高められるように努めた。

(3) 介護、生活支援

入院者の増加による空床利用でショートステイが増加し業務が煩雑になっている。

- ① 24時間の介護方法の共有化までには至らなかったものの安全に注意し介護を提供した。
- ② 機能訓練との協働による介護予防を行うまでには至らなかった。

(4) 健康管理

- ① 日々の健康管理に努め安定した生活ができるよう看護を行った。
- ② 医師との連携は強化したものの、入院者の早期退院を評価できるレベルとはならなかった。又、入院者が増加することを抑制するまでには至らなかった。

(5) 機能訓練

- ① 施設サービス計画と連動し身体機能の維持向上に努めた。
- ② 個別機能訓練で個々に適した関節可動域訓練や平行棒を使用し歩行訓練を実施できた。
- ③ 集団機能訓練については実施が難しく行うことができなかった。

(6) 栄養管理

- ① 入所者の個々の状態に応じた食事提供を実施した。又、食事实施状況は食事介助を通じて確認することができたため、個々のニーズに応じた食事提供ができた。
- ② 季節を感じられるようなメニューを実施し、喫食状況の確認を行った。

2、在宅福祉サービス

- ① ショートステイで利用される方の個々の状況を事前に把握して、在宅生活の継続が行えるよう介護を提供することができた。
- ② 将来の施設入居を見据えて施設入居がスムーズになるよう介護が提供できた。

3、感染症対策

感染症蔓延防止対策として、標準予防策を継続して行った。しかし新型コロナウイルスの特性として、出勤時に熱発していない感染者により外部からのウイルス侵入し、2度のクラスターが発生した。1度目は入所者31名、職員15名が感染し1か月に及び感染症対応が続いた。2度目は別の棟で入所者15名、職員1名が感染し3週間の感染症対応が続いた。このクラスターの経験から感染症対応が入所者の生活に及ぼす影響が大きかった。

- ① 感染BCPについては、昨年度のクラスター発生時の経験を基に本年度のクラスターの対応はできたものの、感染の規模やハード面の違いにより様々な対応が発生したため、今後の課題を残すこととなった。
- ② 簡易陰圧装置の設置については補助金対象外となり申請できなかったため、今後はゾーニングや換気などの工夫による感染対策を行うこととして対応する。

4、身体拘束・高齢者虐待防止の取り組み

身体拘束、虐待に関するアンケートの実施により、職員の状況確認とアンケート結果の傾向に基づく対応、研修内容に反映することができた。年2回の職員研修の実施はコロナ感染の影響で動画研修に切り替えて実施することができた。

5、リスクマネジメント

毎月事故防止委員会を開催し、事故・ヒヤリハット件数の分析を行い、対策を検討している。本年度の成果として事故件数が明らかに減少しているわけではないものの、事故防止の要因を少なくするための考え方が醸成されてきている。

6、防災計画

当初計画していた電源確保は次年度に再度申請することとなり、本年度は実施できなかった。

- ① 災害時の訓練として災害時に電源が確保できない想定でグループワークを行った。
- ② 食料の確保としては保存食1日分、食事業者備蓄分を2日分で計3日分を確保することができた。

7、職員教育、職員研修

- ① 高齢者虐待や事故予防の研修
- ② 感染症の基本や業務継続計画に基づいた研修
- ③ 災害時の業務継続計画に基づいた研修
- ④ 新人教育に関する研修
- ⑤ 外国人材（特定技能）の方に合わせた研修
- ⑥ 職員のチーム力を高めるための対話型研修
- ⑦ 介護技術、腰痛予防に関する研修
- ⑧ 職員の希望に基づいた研修等

各研修実施について対面研修は感染症対応で難しかったが動画研修などを取り入れ実施することができた。

8、行事実施状況

年間・月間の行事計画に基づいて、小規模の書道クラブ、生け花クラブは継続して実施した。集団での外出や大規模な行事は感染対策の一環として中止せざるをえなかった。

9、地域交流計画

(1) ご家族との交流

ご家族と離れて生活しているご入居者にとって、家族とのふれあいは大切であり、家族会等を通じて連絡を取り合う。但し感染症蔓延状況によりガラス越し面会に対応した。

(2) 地域との交流

感染症の蔓延防止のため地域との交流は行えなかった。

令和4年度 特別養護老人ホーム深谷荘（ユニット型）事業報告

運営目標

～継続した生活を支えるために基礎、基盤を固める～

各職種が介護サービス計画に参画し、より豊かで快適な生活の場を創造することで、より多くの方にご利用いただけるように多職種、役職員一同が取り組んだ。

	令和4年度	令和3年度	平成2年度	平成31年度	平成30年度
要介護1	12.6%	15.0%	10.2%	11.1%	8.6%
要介護2	15.6%	17.0%	18.4%	19.3%	11.1%
要介護3	21.2%	24.0%	19.9%	23.7%	31.8%
要介護4	20.8%	16.4%	31.1%	20.3%	21.7%
要介護5	29.8%	27.6%	20.4%	25.6%	26.8%
平均介護度	3.4	3.2	3.3	3.3	3.5

介護報酬実績については、令和3年度の8,481万円を上回る9,260万円（+779万円）となり当初予算からは46万円マイナスとなった。今後もより多くの入所者への「ケアの質」を追求し、「基本理念」に沿ったサービスを提供できる施設を目指す。

1、処遇報告

運営理念・運営方針に基づいて、「施設だからできる生活の質」をミッションとし、利用者・家族の立場に立ったサービスを提供し、施設生活を継続していただく為に、医療面の強化・連携、研修の充実を図り、ケアの実践に努めた。

短期入所生活介護事業においては、在宅での生活を維持・継続していただけるよう支援した。

(1) 生活相談、入居促進

在宅生活の継続が困難になった施設利用希望者にユニット型の特色を生かしたサービスを実施し健康管理も介護職の気づきを高めて疾病予防につなげた結果、入院者は増加せず安定した運営となっている。

(2) 施設ケアマネジメント

- ① 担当者会議を定期的に行うことで施設サービス計画の作成、更新が予定通り行えた。
- ② モニタリング、評価、計画変更等を定期的に行った。
- ③ ご家族や専門職調整による「施設だからできる生活の質」を高められるように努めた。

(3) 介護、生活支援

- ① 24時間の介護方法の共有化までには至らなかったものの安全に注意し介護を提供した。
- ② 機能訓練との協働による介護予防を行うまでには至らなかった。

(4) 健康管理

- ① 日々の健康管理に努め安定した生活ができるよう看護を行った。
- ② 医師との連携は強化したものの、入院者の早期退院を評価できるレベルとはならなかった。又、入院者が増加することを抑制するまでには至らなかった。

(5) 機能訓練

- ① 施設サービス計画と連動し身体機能の維持向上に努めた。
- ② 個別機能訓練で個々に適した関節可動域訓練や平行棒を使用し歩行訓練を実施できた。
- ③ 集団機能訓練については実施が難しく行うことができなかった。

(6) 栄養管理

- ① 栄養マネジメントの実施により栄養士が食事状況を確認し、入所者の個々の状態に応じた食事提供を実施した。
- ② 季節を感じられるようなメニューを実施し、喫食状況の確認を行った。

2、感染症対策

感染症蔓延防止対策として、標準予防策を継続して行った。

- ① 簡易陰圧装置の設置については補助金対象外となり申請できなかったため、今後はゾーニングや換気などの工夫による感染対策を行うこととして対応する。
- ② 感染研修を定期的に行い、感染症の発生を予防した。

4、身体拘束・高齢者虐待防止の取り組み

身体拘束、虐待に関するアンケートの実施により、職員の状況確認とアンケート結果の傾向に基づく対応、研修内容に反映することができた。年2回の職員研修の実施はコロナ感染の影響で動画研修に切り替えて実施することができた。

5、リスクマネジメント

毎月事故防止委員会を開催し、事故・ヒヤリハット件数の分析を行い、対策を検討している。本年度の成果として事故件数が明らかに減少しているわけではないものの、事故防止の要因を少なくするための考え方が醸成されてきている。

6、防災計画

当初計画していた電源確保は次年度に再度申請することとなり、本年度は実施できなかった。

- ① 災害時の訓練として災害時に電源が確保できない想定でグループワークを行った。
- ② 食料の確保としては保存食1日分、食事業者備蓄分を2日分で計3日分を確保することができた。

7、職員教育、職員研修

- ①高齢者虐待や事故予防の研修
- ②感染症の基本や業務継続計画に基づいた研修
- ③災害時の業務継続計画に基づいた研修
- ④新人教育に関する研修
- ⑤外国人材（特定技能）の方に合わせた研修
- ⑥職員のチーム力を高めるための対話型研修
- ⑦介護技術、腰痛予防に関する研修
- ⑧職員の希望に基づいた研修等

各研修実施について対面研修は感染症対応で難しかったが動画研修などを取り入れ実施することができた。

8、行事实施状況

小規模の誕生日会、外気浴、ドライブ外出は継続して実施した。

集団での外出や大規模な行事は感染対策の一環として中止せざるをえなかった。

9、運営推進会議

新型コロナウイルス感染防止のため開催できなかった。

以上

令和4年度 デイサービスセンターバンビ 事業報告書

令和4年度 運営目標

～身体によい事は認知機能にも良い～

活動中心のプログラムに移行して認知症予防の特色を前面に出し利用者に喜んでいただけの活動プログラムを継続して行っている。しかし、新型コロナウイルスの感染増加の波と共に幾度となく事業の安定が揺るがされる事となった。新型コロナウイルスのクラスターが発生し1週間営業を自粛したことや、自宅での生活が徐々に難しくなることで短期入所利用が増え休む方が多かったこと、その後施設入所や入院の方が増加し利用者増の結果には至っていない。今年度に利用者の方々を誘引できる方策を講じ、稼働率を1日平均利用人数13名から16名、稼働率65%から77%に引き上げる目標としていたが、結果として上期は目標に近づいたものの、その後稼働は低迷し年度平均で65.8%の結果となった。

デイサービス事業実施状況

1、通所介護利用者の状況

令和4年	平均要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	1.6	17	10	1	1	1
令和4年	平均要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
7月	2.0	18	10	0	1	2
令和4年	平均要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
10月	1.7	21	12	1	1	2
令和5年	平均要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1月	1.6	23	10	1	3	0
令和5年	平均要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
3月	1.7	20	10	2	3	1

2、通所介護サービス利用状況

	通所介護事業			その他サービス		
	利用日数	延べ利用人数	1日当たり利用人数	入浴サービス	食事サービス	機能訓練
4月	26	324	13.5	245	310	202
5月	26	327	12.6	250	314	114
6月	26	320	12.3	231	308	242

7月	26	320	12.3	231	308	242
8月	26	256	12.1	183	248	205
9月	24	300	12.5	238	290	275
10月	26	332	12.7	253	324	297
11月	26	336	12.9	261	328	296
12月	26	345	13.2	265	337	316
1月	23	297	12.9	219	289	234
2月	24	264	11.0	200	253	240
3月	27	270	10.0	201	259	225
合計	301	3,710	12.3	2,900	3,584	2,853

3、介護予防通所介護利用者の状況

	利用 日数	実利用者人数			延利用者人数		
		計	要支援1	要支援2	計	要支援1	要支援2
4月	26	8	3	5	38	10	28
5月	26	8	3	5	38	12	26
6月	26	8	3	5	42	14	28
7月	26	7	3	4	32	9	23
8月	21	6	2	4	18	6	12
9月	24	6	3	3	26	13	13
10月	26	6	3	3	27	12	15
11月	26	6	3	3	26	12	14
12月	26	6	3	3	29	14	15
1月	23	6	3	3	24	12	12
2月	24	6	3	3	21	10	11
3月	27	5	3	2	23	13	10
合計	301	78	35	43	344	137	207

4、地区別利用状況

	三石	吉永	蕃山	その他	合計
男性	1	2	0	1	4
女性	19	11	1	5	36
合計	20	13	1	6	40
構成比	50%	32.5%	2%	15%	100%

5、行事実施状況

月日	行事名	内 容	参加数
4月5～6日	花見	車窓より桜の花を見学	21日
4月19日	おやつバイキング	3種のおやつから選んでいただく	全員
5月5日	端午の節句	新聞紙で兜作り	13名
5月20日	おやつバイキング	3種のおやつから選んでいただく	全員
6月4日	傘踊り鑑賞	職員による踊りの鑑賞	12名
7月25日	オンラインレク	認知症予防体操	14名
7月22日	手作りおやつ	手作りおやつを楽しんでいただく	全員
9月14～16日	敬老の祝い	祝祭者にプレゼント	39名
9月26日	オンラインレク	認知症予防体操	16名
9月28日	手作りおやつ	手作りおやつを楽しんでいただく	全員
10月4日	傘踊り鑑賞	職員による踊りの鑑賞	14名
10月17日	手作りおやつ	手作りおやつを楽しんでいただく	全員
10月27日	オンラインレク	認知症予防体操	13人
11月11日	もみじ狩り	閑谷学校の紅葉を鑑賞	10名
12月24日	クリスマス会	リースをプレゼント	15名
	手作りおやつ	手作りおやつを楽しんでいただく	全員
R5 1月13日	とんど焼き	お飾りを焼き、みかんを炙り食する	11名
1月26日	オンラインレク	認知症予防体操	全員
2月3日	節分	職員が扮する鬼に豆まき	11名
2月23日	手作りおやつ	手作りおやつを楽しんでいただく	全員
3月3日	桃の節句	歌を歌い、ひな人形と写真撮影	9名
3月20日	手作りおやつ	手作りおやつを楽しんでいただく	全員

以上

令和4年度 深谷荘居宅介護支援事業所 事業報告書

運営目標

ご利用者が地域の中で安心して暮らすために、その有する能力に応じ自立した生活を継続するため、社会資源を適切に活用できるように相談、支援します。

1. 居宅サービス重点施策

(1) 居宅ケアマネジメント体制

「自宅だからできる生活の質」を高めるため、居宅サービス計画を作成し、ご利用者、ご家族に高い評価をいただけるよう、ご家族や各事業者、専門職との調整を行っている。

重点施策

① 居宅支援利用者をできる限り受け入れるため3名体制に増員した。

目標 90 件/月（うち介護予防 30 件/月）に対し年度末 97 件（うち介護予防 22 件/月）

② 自施設利用について特にショートステイの定期利用、空床利用によるショートステイの利用者が増加した。その反面、ショート利用と入院者増加によりデイサービス利用者が減少した。

	要 介 護					計
	I	II	III	IV	V	
4月	32	19	9	4	1	65
5月	33	20	8	3	1	65
6月	32	20	7	3	2	64
7月	35	20	6	4	4	69
8月	40	17	5	3	1	66
9月	38	17	6	3	1	65
10月	43	17	5	3	0	68
11月	45	16	4	4	1	70
12月	43	15	4	6	0	68
1月	49	11	4	6	1	71
2月	49	15	4	7	1	76
3月	47	12	5	8	3	75
計	486	199	67	54	16	822
構成比	59.2	24.2	8.1	6.6	1.9	100

概況

増加件数合計 44 件

地域包括から紹介	20	家族・知人から紹介	6	予防給付から移行	3
吉永病院から紹介	1	紅葉川荘居宅より紹介	12	岡山リハビリ病院	1
老健施設から退所	0	備前病院から紹介	1		

減少件数 25 件

特養入所	7	居宅変更	1
療養型病院入院	2	有料老人ホーム入所	1
死亡	14		

(2) 予防介護サービス計画作成状況

月	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	総合事業	合計
4月	6	6	5	17
5月	4	9	6	19
6月	5	11	5	21
7月	5	9	4	18
8月	4	10	4	18
9月	6	9	3	18
10月	5	10	4	19
11月	5	10	4	19
12月	7	9	4	20
1月	7	9	6	22
2月	7	8	6	21
3月	7	10	6	23
合計	68	110	57	235
構成比 (%)	28.9	46.8	24.3	100

増加合計 6 件

地域包括からの紹介	5	要介護からの移行	1
-----------	---	----------	---

減少合計 9 件

予防から要介護へ移行	2	施設入所	3
死亡	4		

2、相談・申請内容の状況

1. 訪問介護	5件	10. 住宅改修	1件
2. 訪問入浴	0件	11. 介護保険関係 (モニタリング、申請等)	843件
3. 訪問看護	19件	12. 介護保険施設入所	6件
4. 通所介護	10件	13. 住宅改造	3件
5. 通所リハビリテーション	3件	14. 日常生活用具・機器関係	0件
6. 短期入所生活介護	2件	15. 緊急通報システム関係	0件
7. 短期入所療養介護	2件	16. 配食サービス関係	0件
8. 福祉用具貸与	5件	17. 介護予防支援関係	96件
9. 福祉用具購入	1件	18. その他	114件

3、防災計画

災害発生時で、事業が継続できる場合には、可能な範囲で、個別訪問等による早期の状況把握を通じ、居宅サービスの実施状況の把握を行い、被災生活により状態の悪化が懸念される利用者に対して、必要な支援が提供されるよう、居宅サービス事業所、地域の関係機関との連絡調整等を行う計画としていたが、計画策定までの研修参加までとなっている。

4、研修

月日	活動内容	備考
5月14日	東備ケアマネ研修会 BCP作成研修会	和気町
6月3日	ケアマネの集い BCPの考え方具体的な作成についての研修	備前市
8月13日	施設内研修 エアゾール研修	深谷荘
9月16日	ケアマネの集い ケアマネはできる虐待予防研修	備前市
10月22日	施設内研修 コンプライアンス研修	深谷荘
11月18日	ケアマネ主任者研修 オンライン主任介護支援専門員の役割と視点	深谷荘
11月23日	ケアマネ主任者研修 医療との連携、多職種協働の実現	岡山市
11月29日	ケアマネ主任者研修 地域援助技術	岡山市
12月17日	ケアマネ主任者研修 オンライン 人材育成・業務管理	深谷荘
12月25日	ケアマネ主任者研修 オンライン ターミナルケア・ケアマネジメントにおける倫理的課題	深谷荘
R5年1月9日	ケアマネ主任者研修 スーパービジョン	岡山市
1月17日	ケアマネ主任者研修 スーパービジョン	岡山市
1月18日	ケアマネ主任者研修 スーパービジョン	岡山市
1月23日	個別事例を通じた指導支援の展開避難計画作成の人材育成研修	津山市
2月7日	ケアマネ主任者研修 個別事例を通じた指導支援の展開	岡山市
2月13日	ケアマネ主任者研修 個別事例を通じた指導支援の展開	岡山市
2月14日	ケアマネ主任者研修 個別事例を通じた指導支援の展開	岡山市

以上